



2年目のタブレット端末

副校長 安村 宏晃

季節が初夏から盛夏へと移り変わり、今年度も3ヶ月が過ぎようとしています。多くの方のご理解とご協力のおかげで、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止していた春の遠足や宿泊体験、水泳学習を行っています。子どもたちを見ていると、校外に出る活動をとっても楽しみにしている様子がうかがえます。



(水泳学習の様子 プールでの学習はクラスごとに行っています。)

今後も日程や活動方法、活動場所などを検討し、対策をとりながら、充実した活動になるように教職員一丸となって取り組んでいきます。

授業を見に行くと、あちらこちらでタブレット端末を使っている姿を目にします。

修学旅行に向けてネットワークを検索し、興味のある見学先について調べる学習。育てている野菜の様子を写真におさめ、教室でその写真を画面で見ながら成長の様子を確認したり記録したりする学習。人体について、テーマにそって調べてわかったことを学習用アプリのロイロノートを使って書き込んだり、資料を載せたりする学習。豆電球をつける回路をつくるのに、教師の提示する写真資料を、各自のタブレット端末で表示し、見たいところをより大きくしてじっくり見て手元の作業をする学習。鍵盤ハーモニカの代わりに音楽ソフトの機能を使って画面上の鍵盤で、音を出しながら指づかいの練習をする学習。クラス全員が一斉にタブレット端末を出すわけではなく、保存してある画像や紙に描いたイメージ図など一人一人がイメージしやすい違う方法を使って作品づくりをする学習。などなど・・・。

昨年度おやじの会の皆様にもお手伝いいただき、整備した一人一台のタブレット端末を保管庫から出して、学習の目的や一人ひとりのめあてに応じて使用しています。登録されているアプリケーションを使って、書き込んだり写真を撮ったり、調べたり、自分がつくったものをテレビに映して発表したりと使い方も様々です。日頃からスマートフォンなどに触れる機会のある子どもが多いのかとても慣れた様子で操作しています。タブレット端末をつかうときの約束を守り、それぞれの学年に応じて利用していて、学習ツールの一つになってきているようです。さすがさつきが丘小の子どもたちと感じました。

タブレット端末の利用が進み、いろいろな場面に使えるようになることと合わせて、友達同士の仮想空間内での様々な誤解も予想されます。そのようなことでトラブルにならないように外部講師を招いて、ソーシャルメディアネットワーク等にかかわる落とし穴などについて、子どもたちに話していただく計画をしています。ご家庭でも、スマートフォンをはじめ、通信型のゲーム機などネットワーク上に自分の分身をおいてやりとりをするようなゲームを利用することがあるかもしれません。知らず知らずのうちに分身に相手が傷つくような言葉を言わせてしまっているかもしれません。遊び方や仮想空間内での会話や SNS 等への書き込みについては、ご家族でもよくお話しされ、その内容についても聞いてみてください。



7月、暑い中ではありますが、学校での活動を充実させていきます。保護者の皆様、地域の皆様、多くの皆様のご理解とご協力をお願いいたします。